

	委員名		対象事業	回答	担当課
1	小倉委員	<p>【要望】 転職者向け貸し付けについて、約半数が福祉分野に就職と仮定されております。福祉分野への実際に労働移動がなされているのか、どこかで貸し付け対象者に実態調査等を行ってみてはどうか。</p>	福祉系高校修学資金等貸付事業	<p>福祉系高校修学資金等貸付事業のメニューのひとつである「介護分野就職支援金貸付」の目標値(貸付人数:転職者)の設定にあたっては、ハローワークと福祉人材センターで行っている介護分野の職業訓練等の修了者のうち、約半数が福祉分野に就職すると仮定し、貸付対象者数の推計を行っております。 一方で、実際の貸付にあたっては、「前職が介護職員等ではないこと」及び「道内の介護サービス事業所・施設において介護職員等として就職若しくは内定していること」を条件として、就職する際に必要となる被服費や転居費などの経費を貸し付けていることから、貸付対象者は全て福祉分野に転職しているところです。</p>	高齢 (人材育成)
2	小倉委員	<p>【要望】 認知症の方の見守りを家族のみで行うのは至難の業。地域町内会や郵便局、小売店などと連携することが重要。 オレンジチューターなどもっともっと増員することが望ましいと思われるので、前年実績で予算減額するのではなく、積極的な周知広報で、受講者を増やしていただきたい。</p>	認知症にやさしい地域づくり研修事業	<p>道では、市町村が実施する認知症の方々とそのご家族を支える認知症サポーターの養成や、地域の生活を支えるチームオレンジの整備などに対し支援を行ってきたところであり、チームオレンジ・コーディネーター研修の講師役となる「オレンジ・チューター」は、令和2年度以降、5名養成したところです。 この5名が講師を務めるチームオレンジ・コーディネーター研修をオンライン方式で実施するなどの工夫により、171市町村において、計535名がコーディネーター研修の受講を修了しており、地域での支援体制の構築にむけた整備が進んでおります。 引き続き、チームオレンジの整備に向け、コーディネーター養成や、取組事例の紹介・研修の実施などにより市町村の支援を行い、認知症の方々のご家族が希望を持って暮らすことができる地域づくりを進めていきます。</p>	高齢 (地域支援)
3	西委員	<p>【意見】 研修受講者のうち地域ケア会議に携わった歯科衛生士数のR5目標値が3人となっている。 目標設定があまりにも低すぎる。少なくとも21の二次医療圏全てにおいて、1人ずつ程度の数値が必要と考える。もっと各市町村を訪問して、より積極的な営業活動が必要と考える。</p>	食・口腔機能改善専門職等養成事業	<p>研修会の受講状況が目標値に達していることから、新たな歯科衛生士が地域ケア会議に参画することを目指し、目標値を設定したところです。令和3年度の現状値として、23市町村の地域ケア会議に歯科衛生士が参画しており、令和3、4年度の2年間働きかけを行った結果、3自治体において研修修了者である歯科衛生士が新たに参画した旨を把握しております。この度、現状値の1割増を目指し自治体にあたり1人の増とし3名増を目標値を設定したところですが、当課として目指すのは、自治体数の増加であることから、3自治体の増加を目標値として再設定することとしました。また、ご意見いただいたとおり、今後についても積極的に市町村への働きかけを行ってまいります。</p>	地保
4	渡辺委員	<p>【要望】 介護従事者は全国的に不足しており、喫緊の課題となっていることから、地域の実情を把握する自治体や事業所などの意見をより多く取り入れ、実効性のある基金事業となるよう配慮いただきたい。</p>	事業全般	<p>ご指摘のとおり、介護従事者の確保は喫緊の課題であり、当該検討協議会のほか、介護事業所団体や職能団体等で構成する「北海道介護人材確保対策推進協議会」でいただいた御意見を踏まえ、毎年必要な見直しを行うとともに、実効性のある事業実施に向けて幅広く意見を取り入れるため、例年事業提案(アイデア)の募集を実施しているところです。なお、今年度の募集結果につきましては、次回検討協議会時にお示しする予定です。</p>	高齢 (介護人材)